



7月3日

KIRIGAOKA-DAINI

霧が丘第二小学校視聴覚室にて

第2回霧が丘地区小規模校再編検討委員会 開催

再編検討の経緯と第一回検討委員会の内容

1 横浜市全体の小・中学校の現状とそれに対する方針

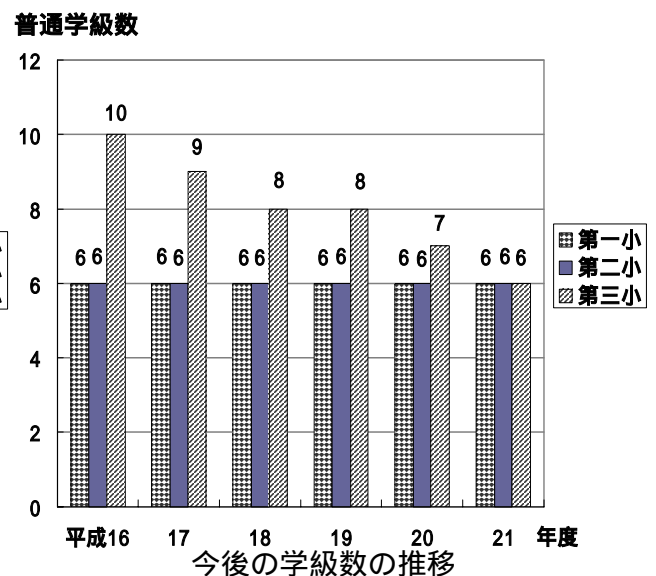
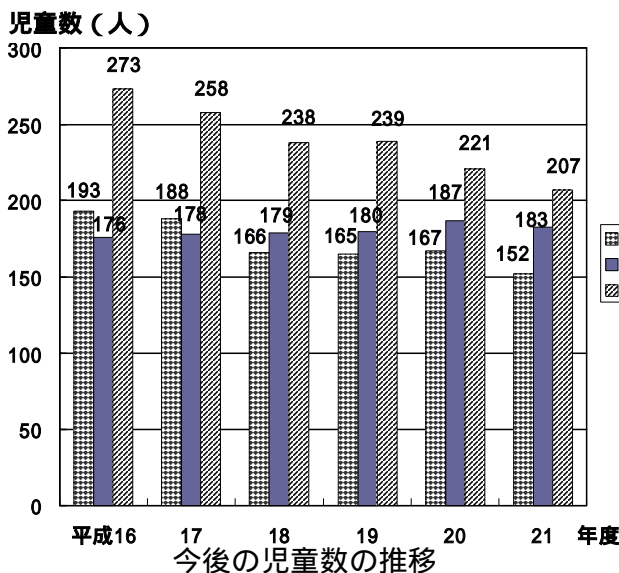
横浜市立小・中学校の児童生徒数は年々減少してきており、それに伴って小規模校（小学校11学級以下、中学校8学級以下）の数も年々増え（小学校55校・中学校19校(10年前の3倍)）、様々な問題点が指摘されるようになりました。

そこで、横浜市では平成15年12月に「横浜市立小・中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域の見直しに関する基本方針」を策定、小・中学校の小規模化問題に取り組むこととしました。（基本方針等URL：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>）

2 霧が丘地区の小学校の現状

霧が丘地区には、霧が丘第一・霧が丘第二・霧が丘第三小学校の3つの小学校がありますが、どの学校も今後の児童数は概ね減少傾向で、平成21年には合計542人、どの学校も各学年1学級(40人以下)になることが見込まれています。

そこで、「霧が丘地区小規模校再編検討委員会」を設置し、再編検討を進めています。



いずれも平成15年度住民基本台帳より推計（平成16年度の児童数は実数と異なります。）

今回の委員会までにあったご意見

- ・クラス担任 = 学年主任になってしまうことに1学年1学級の問題点があると思う。
- ・近隣の通学区域内の学校と選択できないか。一つの中学校区に一つの小学校しかない場合には、9年間一緒になり、逆に逃げ場がないと思う。
- ・再編統合すれば集団登下校が可能になるため、通学距離が長くなるとしても安全が保てると思う。
- ・1学年1学級のメリット・デメリットを冷静に判断すべきだと思う。
- ・検討委員会ニュースを配るのが遅い。もっと会議の透明性を確保してほしい。

第2回検討委員会での協議内容

1 学校施設の転用について

文部科学省によってまとめられた全国の学校跡地利用の状況から、特に「児童生徒数の減少」により統合後等で学校の機能を終えた土地建物の転用事例について説明をしました。

(1) 建物・土地の活用状況

8割を超える学校施設が活用されています。

- ・対象施設：2,125件（調査期間：平成4年度～平成13年度）
- ・内訳（次表のとおり。活用数は複数回答のため総数と合致しません。）

既存建物の活用の場合には主に教育委員会の所管となる、社会教育施設と社会体育施設としての活用が半数以上を占めています。新設建物の整備の場合には多様な用途での活用が見られ、土地の活用の場合には概ね地域のグラウンドとして活用されています。

		活用（1748件）		未活用（377件）
種別	件数	内訳件数		
既存建物の活用	1,298	社会教育施設(公民館、生涯学習センター等)	417	
		社会体育施設(スポーツ施設等)	311	
		体験交流施設	77	
		庁舎等	73	
		老人福祉施設	51	
		備蓄倉庫	45	
		その他	324	
新設建物の整備活用	388	社会教育施設(公民館、生涯学習センター等)	67	
		体験交流施設	30	
		老人福祉施設(デイケアセンターを除く)	29	
		老人デイケアセンター	28	
		その他	234	
土地の活用	1,289	概ね地域のグラウンドとしての活用		

(単位：件数)

(2) ご質問・ご意見

- ・学校跡地を養護学校にした事例はあるか。
養護学校ではないが、授産施設（障害者の作業所）として転用した事例が2例（栃木県芳賀町及び福岡県豊前市）ある。（教育委員会事務局学校計画課が回答）
- ・跡地利用に関しては、この地域にはコミュニティー施設がないなど、様々な観点から慎重に議論していくべきだと思う。
- ・子どもと遊ぶ機会がもっとほしいと考えているお年寄りがいるので、そういう場を積極的に作ってほしい。先に予算を提示してもらえると、現実的な議論ができると思う。

2 再編のシミュレーション

(1) 児童数と学級数(1学級の児童数の上限を40人として計算)のシミュレーション

霧が丘地区の3つの小学校を再編した場合の児童数と学級数のシミュレーションについて説明しました。

2校を1校に統合する場合は、統合校は適正規模の下限の12学級で1学年2学級、児童数も減少傾向です。さらに残る1校は小規模校のままの状態です。

3校を1校に統合する場合は、適正規模である12～24学級のほぼ中央の18学級程度（1学年3学級）の学校となる見込みです。

なお、3校を1校にする場合は、いずれの学校も普通学級数が不足することが見込まれていますので、必要な増築及び改修を検討します。

		H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
霧が丘第一小 +	学級数	12	12	12	12	12	11
	児童数	373	366	345	345	354	335
霧が丘第二小	学年平均児童数	62	61	58	58	59	56
	学級数	14	13	12	12	12	12
霧が丘第一小 +	児童数	474	446	404	404	388	359
	学年平均児童数	79	74	67	67	65	60
霧が丘第三小	学級数	14	13	12	12	12	12
	児童数	457	436	417	419	408	390
霧が丘第三小	学年平均児童数	76	73	70	70	68	65

霧が丘第一小 + 霧が丘第二小 + 霧が丘第三小	学級数	19	19	18	18	18	17
	児童数	652	624	583	584	575	542
	学年平均児童数	109	104	97	97	96	90

*平成16年については実数値、平成16年以降は平成15年住民基本台帳より推計しています。

*個別支援学級は必要に応じ設置するため、個別支援学級の児童数・学級数は実数と推計に算入していません。

参考：現在各校の保有する普通教室数

霧が丘第一小	17
霧が丘第二小	15
霧が丘第三小	17

(2) 再編統合した場合の新校への通学時間と通学児童の割合(シミュレーション)

学区内地区からどの学校へも最大徒歩25分程度です。

	通学距離	総児童数(*)に占める児童数割合
霧が丘第一小を 使用した場合	15分未満(1200m未満)	76.1%
	15分～20分未満(1200～1600m未満)	21.5%
	20分～25分未満(1600m以上)	2.4%
霧が丘第二小を 使用した場合	15分未満(1200m未満)	92.4%
	15分～20分未満(1200～1600m未満)	6.8%
	20分～25分未満(1600m以上)	0.6%
霧が丘第三小を 使用した場合	15分未満(1200m未満)	97.8%
	15分～20分未満(1200～1600m未満)	2.2%
	20分～25分未満(1600m以上)	0.0%

*個別支援学級の児童を除いた、霧が丘地区小学校通学区域内に住む児童の総数。

(3) ご質問・ご意見(質問に対する回答は、全て教育委員会事務局学校計画課)

- ・小学校と中学校が隣接していることによるメリットはあるか。
現在たまたま小学校と中学校が近接している通学区域がありますが、例えば、中学校の英語の教師が小学校でも教える、社会科見学の際に専門教科の中学校教員が同行する、などしています。また、現在横浜市には小学校に不登校児童は900人程度、不登校生徒は2300人程度おり、中学校での発生が多くなっています。小学校と中学校が隣接していると教員同士も連携が図りやすく、児童・生徒に対し、小学校から中学校まで一貫して目をかけることができるので、不登校を防ぐことができるのではないかと考えています。
- ・通学距離・時間についての資料は、直線距離で出した数字か。
通学路を使用した場合の通学距離・時間です。
- ・分校は考えないのか。
考えておりません。
- ・3校を1校に統合した場合、教室数が不足するが、その状態で児童を学校に入れるのか。
増築等必要な整備をしてから、新校としてスタートします。
- ・各校の敷地面積は。
霧が丘第一小学校が13,121㎡、霧が丘第二小学校が13,164㎡、霧が丘第三小学校が13,446㎡です。敷地面積はほぼ一緒ですが、校舎の面積は各校で違うので次回の委員会に検討資料としてお持ちします。
- ・再編を段階的に行うと、子どもに負担がかかる。再編するなら3校を1校にすべきではないかと思う。
- ・欧米や中国は1学級の上限人数が25～30人であり、日本は後れていると思う。
- ・はまっ子ふれあいスクールは学校に一つ設置されるが、場所は必ずしも統合校でなくてもいいと思うので、検討すべきだと思う。

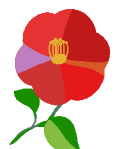
3 統合校の魅力づくりについて

(1) 現在の霧が丘第一小・霧が丘第二小・霧が丘第三小の特色について

3校の各校長と各PTA会長に教育方針や今年度の取組について話してもらいました。

霧が丘第一小 今年度の重点取組

- ・池や農園を活かした環境教育



- ・発表の場の創出
春の運動会やキリイチ ザミュージック、児童で自由に意見を交換する「ハッピースクール」、地域の人の作品を展示する「夢いっぱい展」
- ・和室やランチルームを使った活動（囲碁、百人一首大会、昔遊び、食育の推進など）
- ・地域の方々との交流（昔遊びの会、似顔絵教室や、美化活動）
- ・異学年との交流

*** 霧が丘第二小 今年度の重点取組 ***

- ・英語活動によるコミュニケーション能力の育成
児童の保護者や卒業生、地域の方、東洋英和女学院大学からのサポートによって実施
- ・異学年や地域、障害のある方との交流を通して豊かな心を育む。
- ・環境教育
特に、地域の方の協力でできたビオトープ、きりしばが児童に人気
- ・朝のスキルタイム（漢字・計算・読書）による基礎学力の定着
- ・情報教育の推進による自ら学ぶ意欲、表現力の向上

*** 霧が丘第三小 今年度の重点取組 ***

- ・地域との密接な連携（環境美化活動など）
- ・話し合い活動と調べ学習による基礎・基本的学力の向上
- ・あいさつ・遊び・花・歌の四つの「いっぱい活動」
特に、「花いっぱい」活動は、学年園、散水栓が多く設置されているのを有効に利用している。「歌いっぱい」活動は、音楽朝会を月に一度行うなど充実している。
- ・姿勢の指導や食育の増進など、健康づくりを重視
- ・PTAでは、子どもへの暴力防止のためのプログラムを実施

(2) 統合校の魅力づくりに関するご質問・ご意見

- ・統合校の検討は、現在の霧が丘地区の3校の教育方針・教育目的・取組と、学校の位置などを総合的に考えながら進めるのか。
再編統合は単なる数合わせではなく、より良い教育環境を作るために行うものです。教育方針や目的とそれを受け入れる施設は連動して考え、進めていきたいと考えています。その際、教育の質についてはぜひ地域の意見をお聞きし、より良い「地域の学校」を作っていきたいと考えています。

**霧が丘地区小規模校再編検討委員会の経過・横浜市の基本方針等は
ホームページでもご覧いただけます。**

- ・基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>
- ・霧が丘地区小規模校再編検討委員会：
<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

検討委員会ニュース(Vol.1)一部訂正のお知らせ

お配りした「霧が丘地区小規模校再編検討委員会News Vol.1」の中で紹介した、「霧が丘地区の人口構成」のうち、平成12年度の人口ピラミッドの数字が、1.3倍になっておりました。お詫び申し上げます。

霧が丘地区小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからの御意見をいただいております。FAXかEメールにて、事務局まで御連絡ください。

*** 霧が丘地区小規模校再編検討委員会事務局 ***

横浜市教育委員会事務局 学校計画課 FAX：045 - 651 - 1417

Eメール：ky-kirigaoka@city.yokohama.jp

電話：045 - 671 - 3252

